

動物学会会員を対象とした キャリアパスに関する意識調査

～小委員会の成立から意識調査結果報告書の完成まで～

報告書概要

完全版はこちらからダウンロードできます

<https://www.zoology.or.jp/wp-content/uploads/2019/11/d1d216f9581de144021a008afeb2820f.pdf>

報告書のコンテンツ

- 1 意識調査を行うにあたって
 - 1-1 キャリアパス形成問題に関する日本動物学会の近年の取り組み
 - 1-2 キャリアパス小委員会の体制と役割
 - 1-3 男女共同参画委員会・将来計画委員会の役割
 - 1-4 キャリアパス小委員会における議論の推移
 - 1-5 意識調査実施決定にいたる経緯
- 2 意識調査の目的
- 3 意識調査の実施方法について
- 4 意識調査の内容
- 5 意識調査の実施
- 6 意識調査の結果分析
 - 6-1 全体の集計結果から
 - 6-2 性別ごとの集計結果から
 - 6-3 年齢ごとの集計結果から
 - 6-4 研究分野ごとの集計結果から
- 7 最後に

2015年1月から

・キャリアパス小委員会立ち上げ
・基礎的な議論
(小委員会として何をすべきか)
・意識調査実施に向けての議論

2016年10月から

意識調査実施の内容、方法等に関する議論

2018年6月から

意識調査結果の集計、分析、報告書作成

キャリアパス小委員会の成り立ち

- 生物科学連合ポスドク問題検討委員会より頒布された文書において、シニアポスドク問題、キャリアパス問題に関する学会への要望として、若手研究者支援を十分に行うよう求められた
- 動物学会としては、男女共同参画委員会、将来計画委員会の合同で小委員会を設置し、キャリアパス問題に取り組むこととした（キャリアパス小委員会）

• 初期メンバー（50音順、敬称略）

- 石原顕紀（静岡大学）
- 窪川かおる（東大臨海実験所）
- 向後晶子（群馬大学）
- 近藤真理子（東京大学臨海実験所）
- 柴小菊（筑波大学臨海実験所）
- 沼田英治（京都大学）
- 椋田崇生（鳥取大学）

• 現メンバー（50音順、敬称略 9月1日現在）

- 石原顕紀（静岡大学）
- 加藤尚志（早稲田大学）
- 向後晶子（群馬大学）
- 小柴和子（東洋大学）
- 近藤真理子（東京大学臨海実験所）
- 柴小菊（筑波大学臨海実験所）
- 杉浦真由美（奈良女子大学）
- 豊田ふみよ（奈良県立医大）
- 美濃川拓哉（東北大学）
- 椋田崇生（鳥取大学）
- 山口陽子（島根大学）
- 吉川朋子（近畿大学）
- 吉田薫（桐蔭横浜大学）
- 渡辺明彦（山形大学）

キャリアパス小委員会における初期の議論 ～動物学会小委員会としてできること～

- ポスドク問題に関する問題点の把握
 - ポスドク後のポスト不足→シニアポスドクの増加（年齢の問題）
 - 企業受け入れの問題（博士号取得者、ポスドクの受け入れが不十分）
 - ポスドク育成の意識の問題（その後のキャリア形成に資するか）
 - 危機管理意識の高い優秀な人材のアカデミックからの流出
- 上記問題点の改善案
 - 学会外部に対する働きかけ（ポスト純増の試み：難しい？）
 - 学位取得者のノンアカデミックなキャリアに関する情報収集
 - 学会大会時の支援（関連シンポジウムの開催やマッチングなど）
 - 研究への情熱をモチベートする
- 改善案の問題点
 - 博士課程進学率、アカデミック志向率におよぼす影響
 - 学会大会は学術集会であり、趣旨に反する

学会員のニーズを探るための意識調査実施を優先事項とし、男女共同参画委員会、将来計画委員会に上申した
→意識調査を行うこととなった

意識調査の実施

意識調査内容の検討

- 分子生物学会で過去に行われた意識調査を参考に、有用な情報を抽出するための内容を検討した（外部専門家の意見も参考にした）

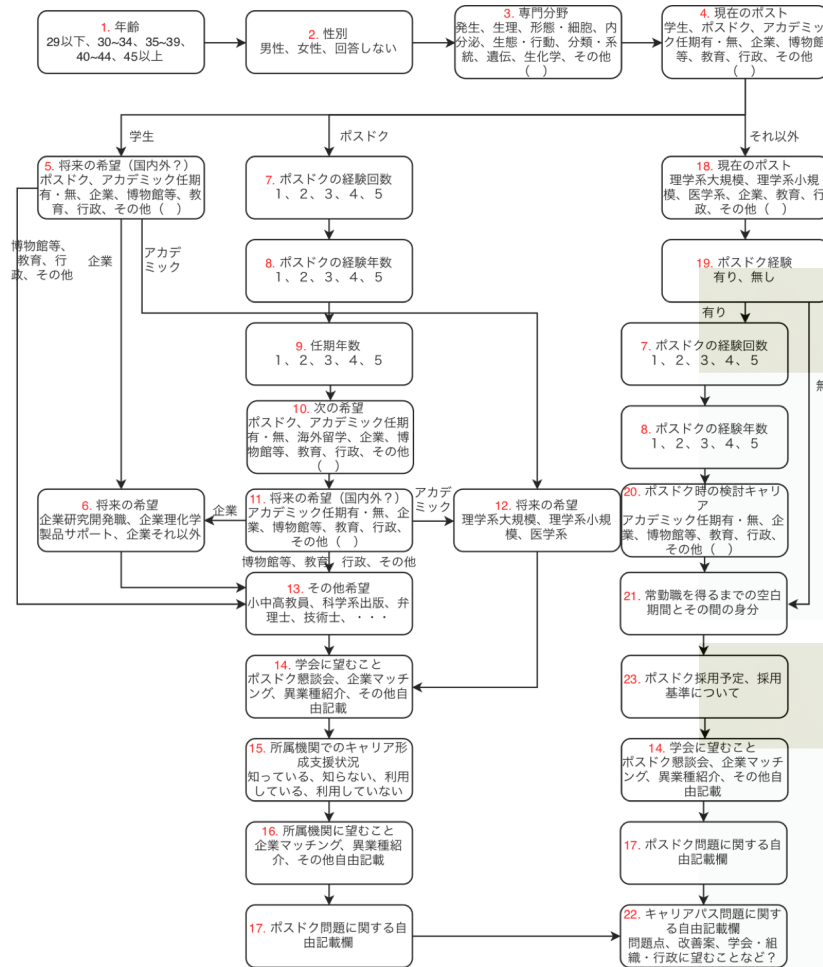
実施を行うシステムの検討

- 様々なシステム（無償、有償いずれも）について情報を収集し、最終的にGoogle Formsを採用した

キャリアパスに関する意識調査

日本動物学会では、キャリアパス（特にシニアポスト問題）に関する問題点を抽出し、改善策を学会員にフィードバックすることを目的に、意識調査を企画しました。ご協力をお願い申し上げます。

なお、本意識調査の集計結果は、学会大会時（総会、男女共同参画懇談会、シンポジウム等）に公表するとともに、日本動物学会ホームページに掲載いたします。また、意識調査の結果をもとに、本問題に対する改善策について、学会員へのフィードバックを最優先に検討することとします。



意識調査結果の解析、報告書作成

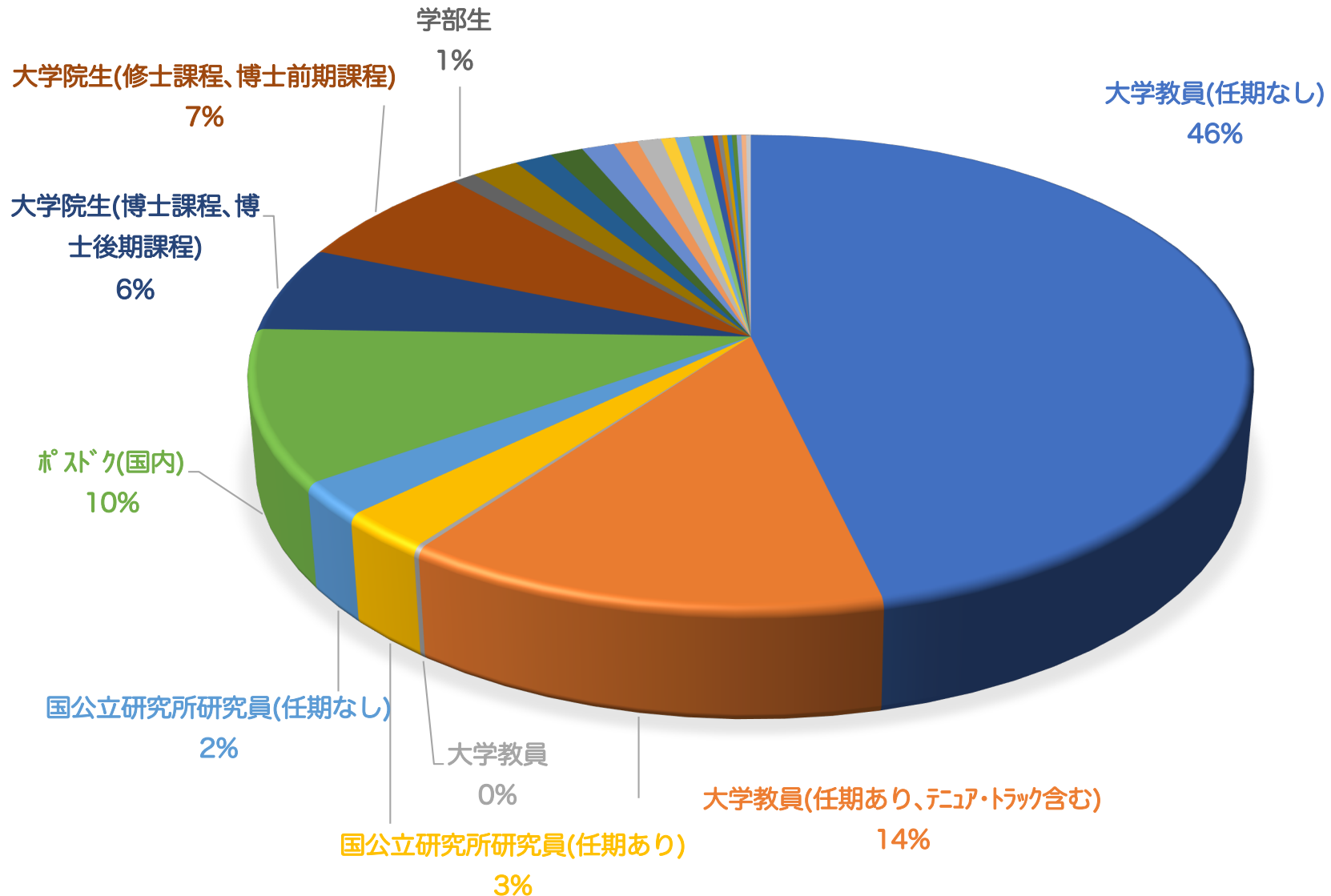
- 意識調査結果の解析

- 得られた結果を全体、性別ごと、年齢ごと、専門分野ごと、などに集計し、解析を行った

- 報告書の作成

- キャリアパス小委員会の成り立ち、初期議論、意識調査実施に至った経緯、意識調査の実施内容、方法の検討、解析結果を記載した報告書を作成した（全78ページ）

解析結果概要：基本属性（現在のポスト）

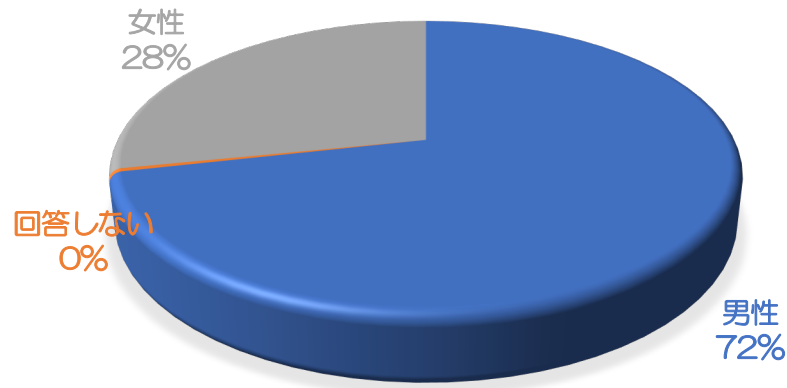


解答総数：568名

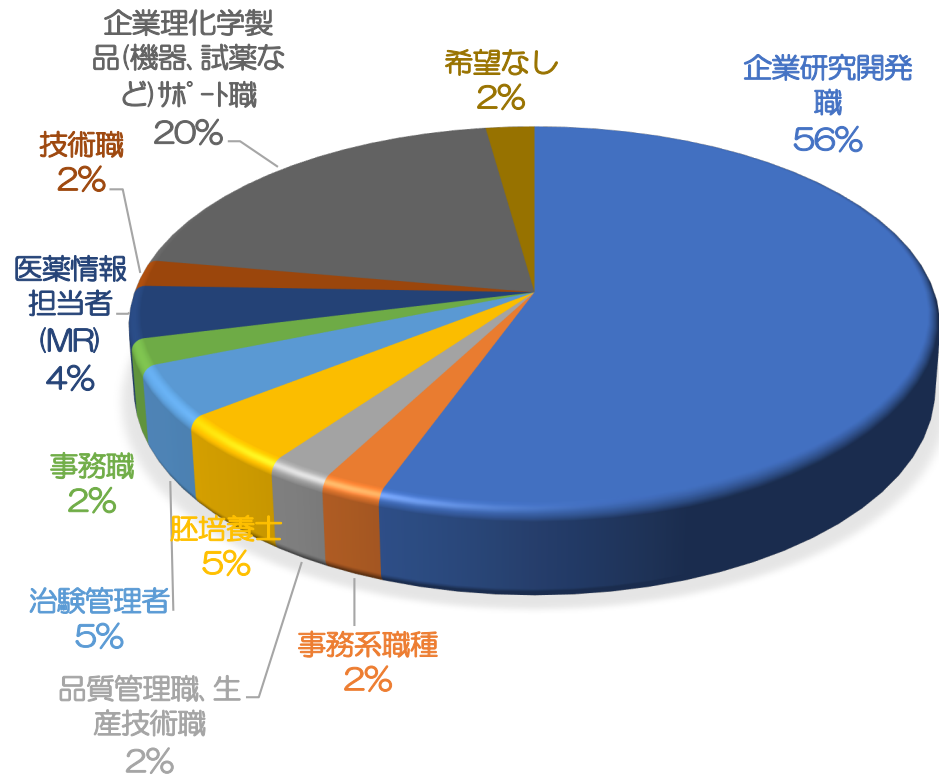
アカデミックポスト：65.14% (370名)

ポストク・学生：24.12% (137名)

解析結果概要：基本属性（性別、将来の希望職種）

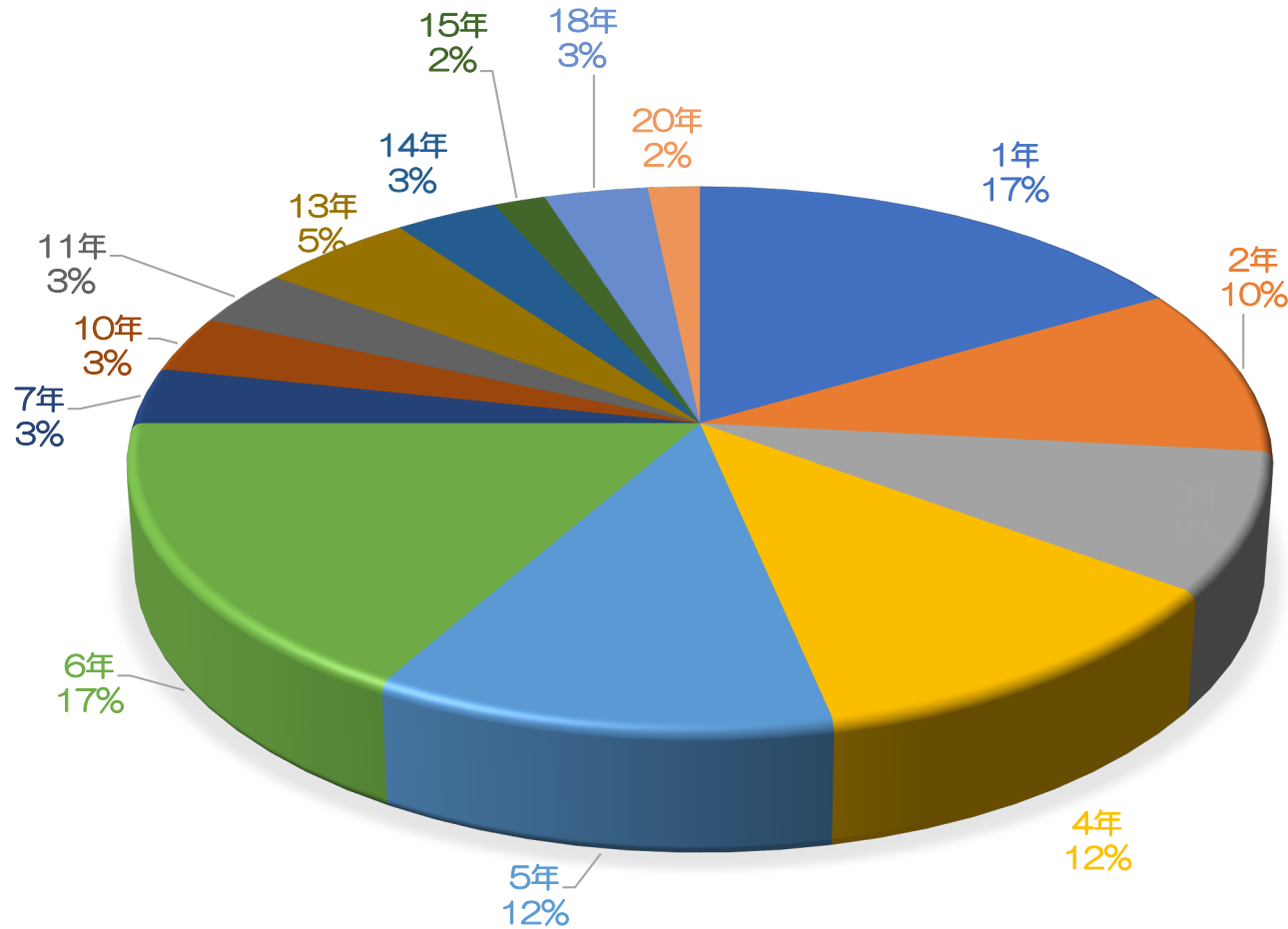


性別
男性：72%
女性：28%
回答しない：0%
→圧倒的に男性会員が多い



学生、ポスドクが非アカデミックポストとして希望する職種は企業の研究開発職56%、製品サポート20%であった。事務系職種の希望と比較して非常に高く、やはり自身の行った研究を何らかの形で活かすことのできる職種を希望しているものと考えられる。

解析結果概要：基本属性（任期付き職の合計年数）

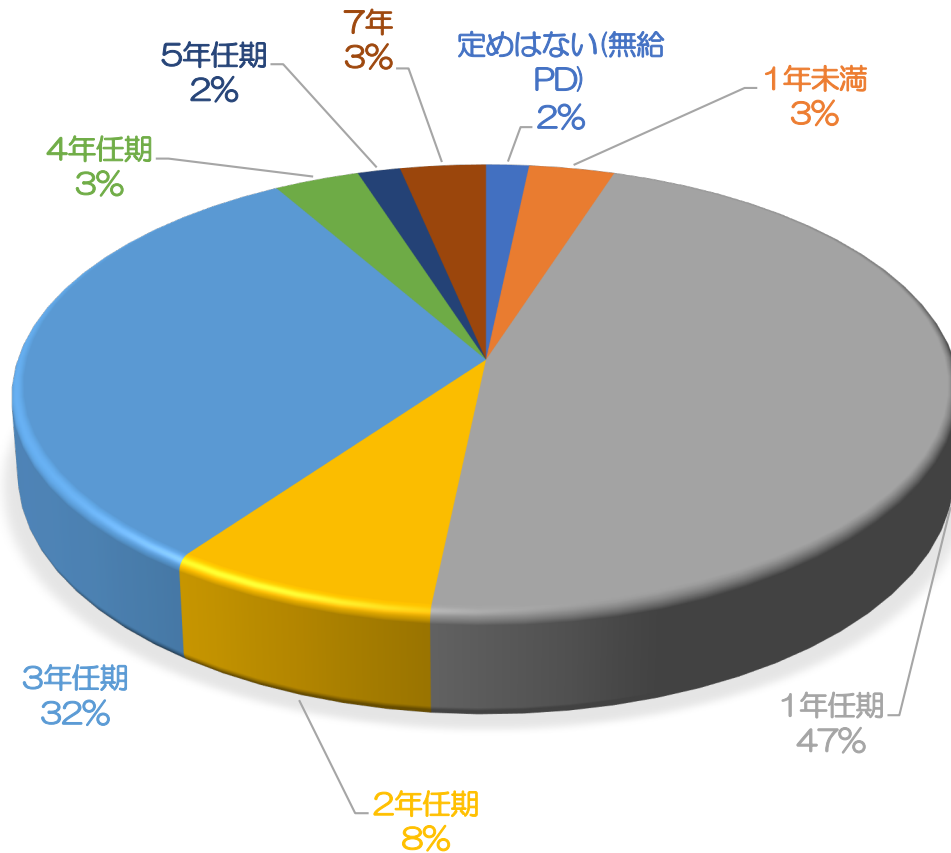


ポストク対象の任期付き職合計年数の質問では、6年以内で75%を占めるものの、10年以上が20%以上もいることが明らかになった。

シニアポストク問題を如実に表す結果であると考えられる。

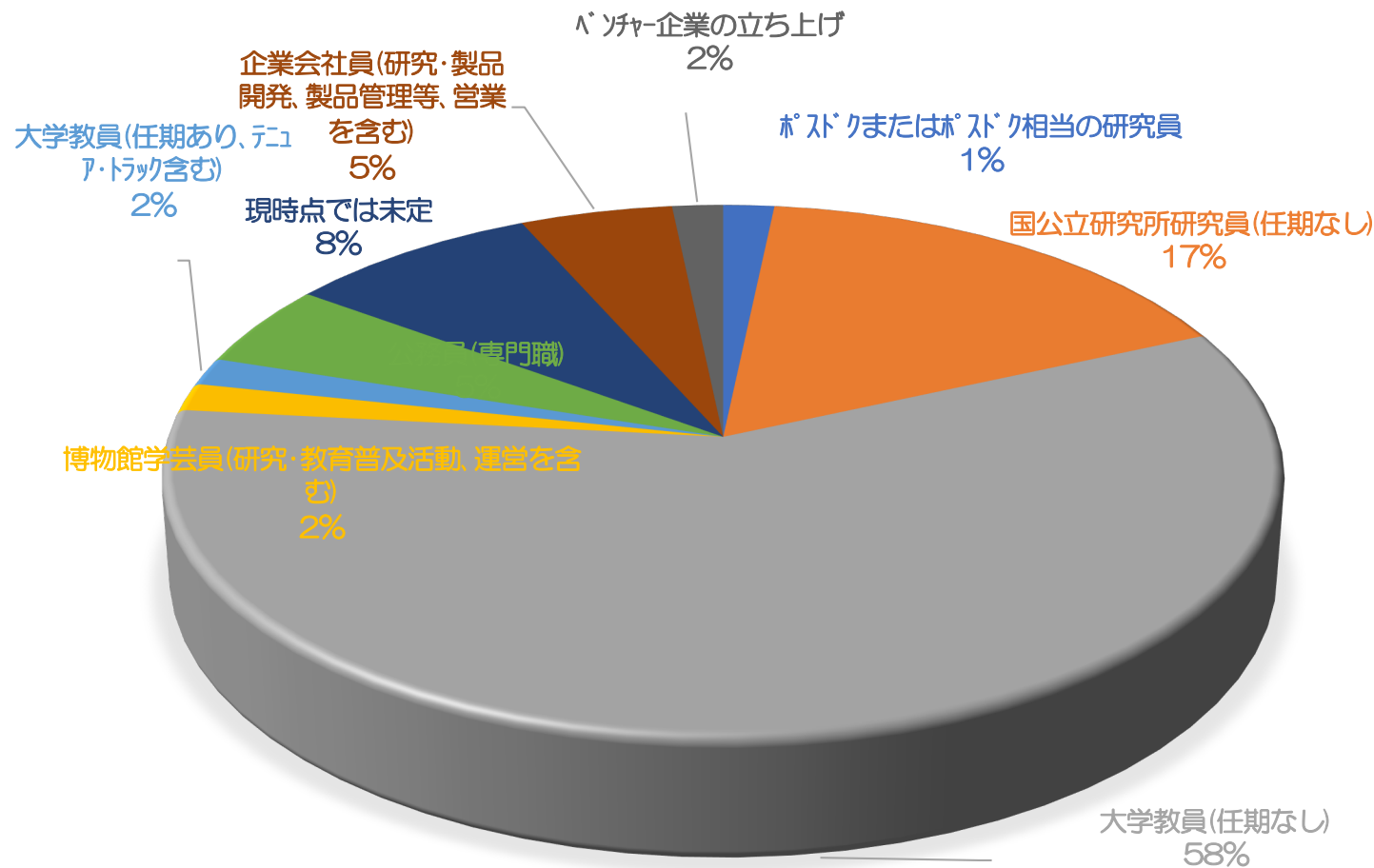
学位取得後の10年はキャリア形成以外にも、人生設計に重要な次期であるため、非常に重要な課題を孕んでいる。

解析結果概要：基本属性（現在の任期・契約期間）



ポスドク対象の現在の任期、契約期間に関する本設問では非常に厳しい現実が明らかになった。1年未満の任期、1年任期で全体の半数50%を占めた。これはおそらく、単年度契約、複数年更新可のケースも含まれるものと考えられるが、5年任期までを合計すると全体の95%程度にもなった。任期が非常に短く、かつこの間に業績を積み重ねないと次のポストを得ることも難しくなると考えられ、非常に厳しい現実が浮き彫りになった。

解析結果概要：基本属性（将来の希望ポスト）



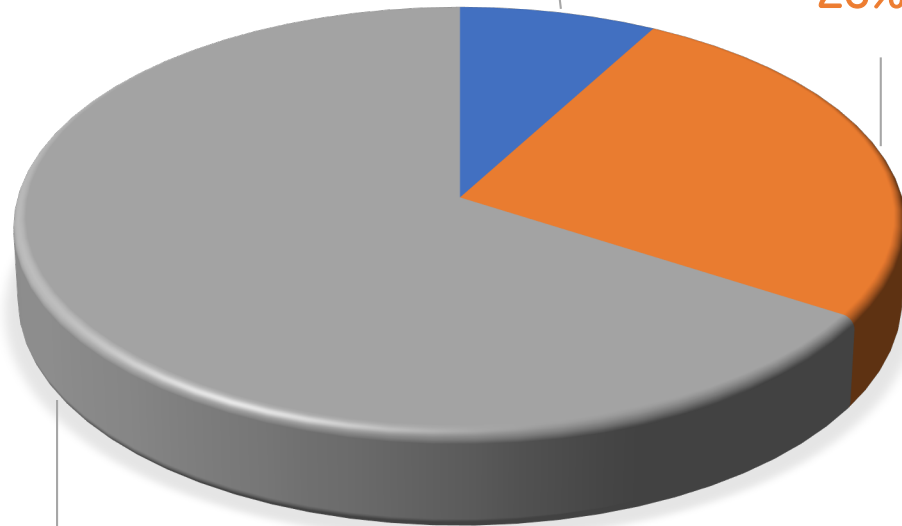
ポスドクが将来希望するポストに関する本設問では非常に顕著な「任期なし」ポストの希望が非常傾向が見られた。ポスドク、任期付きアカデミック職を次のポストとして希望するポスドクが全体の32%であった一方、本設問では3%程度まで減少した。したがってポスドクの大部分が将来的に任期なしのアカデミックポストを希望していることが明らかになった。また、アカデミック志向が非常に強いものと考えられた。

- キャリアパス支援の実態（所属機関）
- 動物学会としての今後の取り組み
（キャリアパス小委員会を中心として）

キャリアパス支援の実態（所属機関）

キャリア形成支援制度を利用している
8%

キャリア形成支援制度
を利用していない
26%

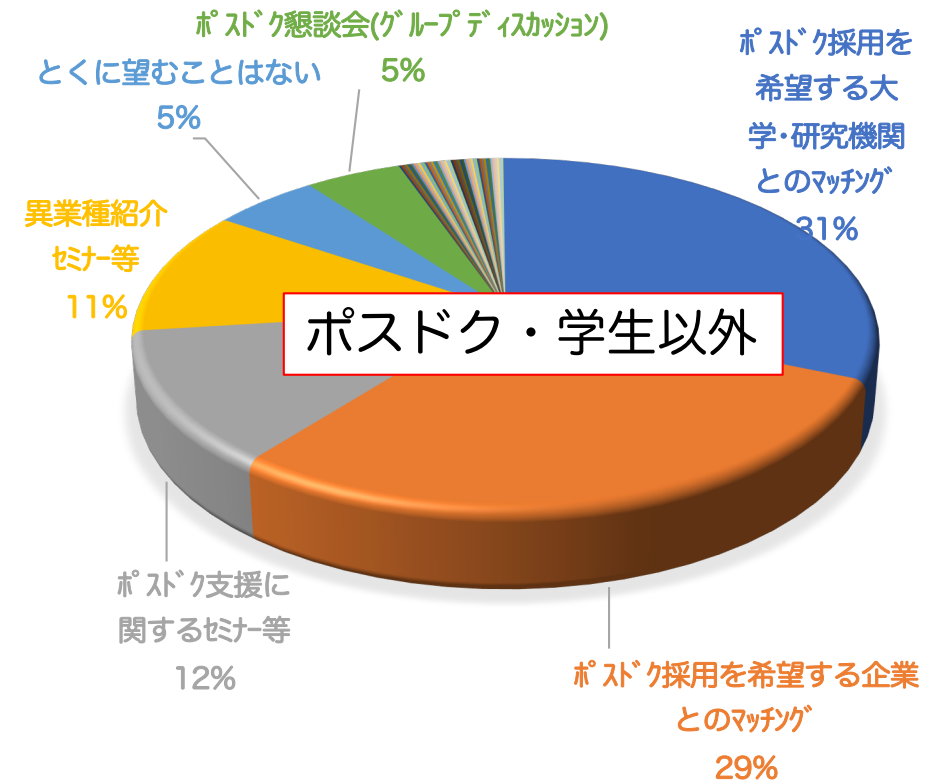
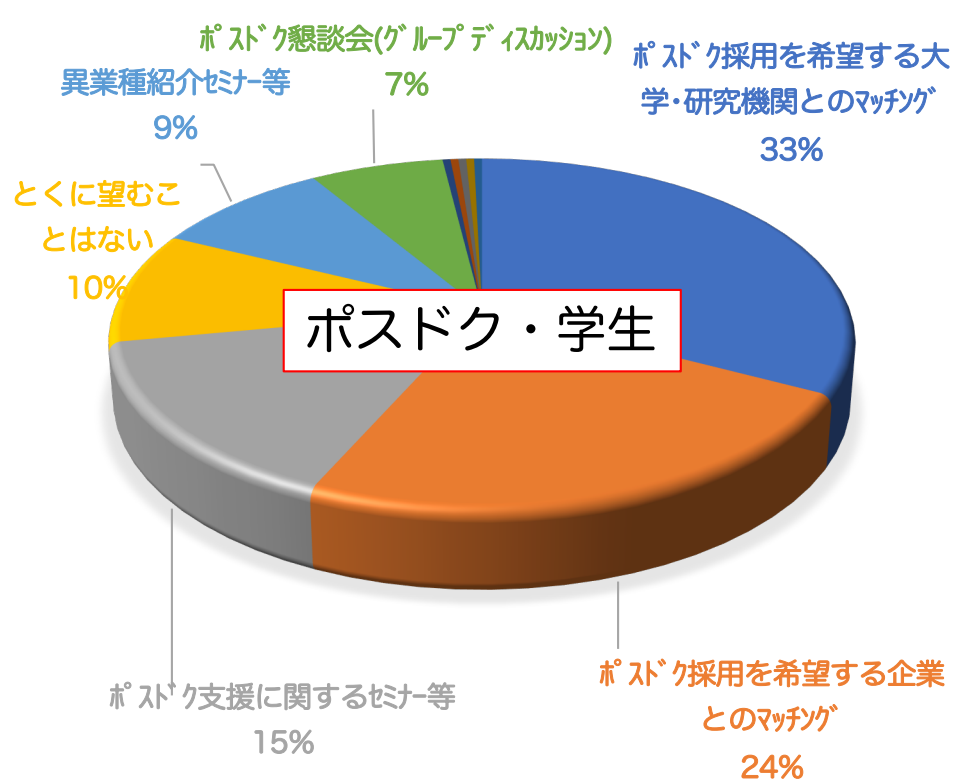


キャリア形成支援制度があるかどうか知
らない

- 本学と離れた遠隔地にいるため、利用を考えたことはない。
- ポストク向けの制度ではなかったため
- 年齢制限があり利用できない
- 制度を利用するより人脈を広げた方がはるかに有意義であると考えため
- 実質的に制度自体が無い
- 基礎研究に向けたものではなく、応用研究者向けのため。
- 研究の時間とバツィンクする
- 就活まで時間があると思ひ、後回しにしてしまう。
- 研究職を志望していないから
- 安定した職業に就職できる保証がない
- 修士以上の学生に対する支援が自大学では非常に弱いから

所属機関でのキャリア形成支援が効率的に機能しているとは言えない状況にある
→学会として何ができるか

動物学会としての取り組み（学会員が学会に望むこと）



- ポストドク・学生だけでなく、多くの人々が学会でのマッチングを希望している
- 異業種紹介セミナー等の希望も多い（アカデミック以外の具体的なキャリアが想定しにくい？）
- 今後、この要望を踏まえて学会としての支援を考えていく必要がある

動物学会としての今後の取り組み (キャリアパス小委員会を中心として)

• 学会員の希望に応える委員会案の模索

- 所属機関におけるキャリア形成支援が十分に機能していない現実があり、ポスドク・学生会員以外だけでなく多くの学会員が具体的な支援を望んでいる
- 上記、具体的な支援に対する委員会案を模索するため、今後の小委員会、両“親”委員会（男女共同参画委員会、将来計画委員会）で議論を行う
- 関連情報の提供（セミナーやシンポジウムなど）：学位取得後のロールモデルの提示など？
- 学位取得者が所属する企業の情報収集など
- 学会大会におけるマッチングの実施：ポスドク募集情報や企業採用情報など

報告書の概要（本ファイル）について

本報告書概要は、回答総数568名の集計結果をもとにしたものである。また、全設問の集計結果の中から、特に重要と考えられるものを抜粋した。

報告書ではその他、性別、年齢別、研究分野別に集計・分析を行ったものを記載してある。詳細は報告書を参照されたい。